

要旨

序論

本論文で筆者は意味論の研究で「歩浜崎が大衆化した日本の歌の比較」について書いた。このテーマを選んだ理由は歌詞の中にたくさん比喩があるので、綺麗な歌を研究するのが面白いと思う。研究を書く目的は歩の歌で筆者は比喩を探して、歌の意味を具体的に理解したい。

研究方法は記述の方法と定性的なアプローチを使用した。また資料を収集するために色々な本を読んでトピックと関係がある理論を使用する。歌詞から資料を収集した。

歌を作るためにももちろん特別な言葉を選ぶ。歌は綺麗な文学作品になるように比喩を使用することができる。比喩ははるひこ（1988：385）によるとその表現の文字通の意味を否定する意識、あるのを他にたとえようとする修辞意識があるかどうかははっきりしない場合である

この本論文で比較の比喩を研究して、特に擬人法と直喩と隠喩である。いづるによると（1992）擬人法は人間以外のものを人間に見立てて表現する比喩。隠喩の一種。言葉が人間中心に仕組みられていることを例証する。また直喩はほう「たとえば」「あたかも」「さながら」「如し」「似たり」などの語を用いて、たとえるものと、たとえられるものとを直接比喩して示すもの。最後、隠喩は類似性に基づく比喩である。「人生」を「旅」に喩えるように、典型的には抽象的な対象を具体的な物に見立てて表現する。

ある作家はもちろん文学作品にメッセージを伝えたい。メッセージの中に意味があり、その意味を分かるように意味論を使った。そのため、意味論の

アプローチを使用する。町田（2004：17），によるとは単語、形態素と文が表す意味を対象する分野が意味論である。歌の中に色々な気持ちやメッセージがある。メッセージは効果的にして美しさを見せなければならない。その一つの美しさは比喩を使用するが聞き手の解釈は色々になる。そのため、この研究で文体論の理論を使って分析する。出編によると（1992：2292）文体論は(stilistics) 言語表現（記載形式・語彙・語法・修辞・リズムなど）の個性的特定の作家・国語（民族）・時代・流派などについて研究するものの。

本論

資料は歩浜崎の歌の歌詞から取られる。その歌の歌詞の中に比喩が多いので筆者は10歌の中に32つの比喩の資料しか分析しなかった。資料は3つ部分に分けた。一つ目は擬人法で、二つ目は隠喩で、三つ目は直喩である。

「moments」の歌詞の中に「行き場所を失くして彷徨ってる剥き出しの心が」は擬人法である。「剥き出しの心が」は名詞で「彷徨ってる」動詞である。

「こころ」は人間の器官で足がないので彷徨することができない。しかし擬人法は何か人生の特徴を例えるのでまるで人間のように歩くことができる。そして歌から見ると意味は誰かが今悲しくて邪魔されたくない気持ちがする。

「moments」の歌詞の中に「君の元で咲き誇るでしょう」は隠喩である。

「咲き誇るでしょう」には「花」を示すはずだが、その歌詞の中に人間が花のように咲き誇ることができる。この隠喩は人間がまるで花の性格のように作られる。実はそれは歌の奇麗さで比喩的な意味である。誰かが咲き誇ることができるのが恋人の側にいたくて励ますしくて、彼女の幸せのために全てをやる。花を見る時のような気分が良くなる。

「moments」の歌詞の中に「鳥のように羽ばたけるなら」という比喻は直喩である。「鳥」は飛ぶことができる動物で、他面、誰かまるで鳥のような飛ぶ。それは人が本当に鳥のように飛ぶことができるという意味ではない。鳥は遠い所へ空を強く飛ぶことが描き出す。意味は遠いのにすぐに恋人の側にいるために全ての障礙を通過する。

結論

歩浜崎の歌の中にたくさん比喻がある。歌が奇麗になるように色々な比喻を使用した。意味も聞き手に気持ちを感じさせる。得られる資料によると鮎浜崎の歌を分析の後での結果は次のようにする：

数	比喻のタイプ	数
1	擬人法	10
2	隠喩	12
3	直喩	10
合計		32

上のテーブルは最後の結果である。歌の中によく使用した比喻が見える。その結果によると隠喩という比喻はよく使用した。隠喩の言葉は擬人法の言葉と直喩の言葉に比べると歌にはよく使用しやすい。さらに隠喩の言葉は歌が作るのもっと美しくする。それなのにも、その三つの比喻は歌にそれぞれ素晴らしい効果を加える。

歩浜崎が大衆化した日本の歌の比較の本論文の分析によると他の歌にまだたくさん比喻が使用した。比較の比喻だけではなく他の比喻がたくさんあるの

で次の研究することができる。他の歌手も比喩を使用するのがたくさんあるはずである。他の文学作品にもきっと比喩が良く使用した。比喩の意識を上げるためにその作品が使用することができる。



DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	iv
DAFTAR ISI	vii
BAB I PENDAHULUAN	1
I.1 Latar Belakang Masalah.....	1
I.2 Rumusan Masalah	9
I.3 Tujuan Penelitian.....	9
I.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	10
I.5 Organisasi Penulisan	11
BAB 2 Landasan Teori	12
2.1 Semantik.....	12
2.2 Makna.....	13
2.2.1 Jenis Makna.....	15
(1) Makna Leksikal dan Makna Gramatikal	15
(2) Makna Referensial dan Makna Nonreferensial	16
(3) Makna Denotatif dan Makna Konotatif.....	17
(4) Makna Kata dan Makna Istilah.....	17
(5) Makna Konseptual dan Makna Asosiatif.....	18
(6) Makna Idiomatikal dan Makna Peribahasa	19
(7) Makna Kias.....	19

2.3	Semantik dan Kesusastraan.....	20
2.4	Majas.....	21
2.4.1	Majas Perbandingan.....	23
2.5	Stilistika.....	27
2.5.1	Kajian Stilistika.....	29
BAB III	MAJAS PERBANDINGAN DALAM LAGU YANG	
	DIPOPULERKAN OLEH HAMASAKI AYUMI	33
3.1	Majas Perbandingan.....	33
3.1.1	Personifikasi.....	33
3.1.2	Metafora.....	42
3.1.3	<i>Simile</i>	48
BAB IV	SIMPULAN.....	57
4.1	Simpulan.....	57
LAMPIRAN DATA		ix
SINOPSIS		xvii
DAFTAR PUSTAKA.....		xxi
DAFTAR RIWAYAT HIDUP PENULIS		xxiii